

# 研究紀要

## 「郷土（ふるさと）のよさを 知り、創り、拓く中学生」の育成 ～ふるさとを担う実践力を育む持続可能な地域貢献活動を通して～

地域の課題について討論



起業企画会議



起業セミナー



アーケードウォークラリー



大村湾・川をきれいにする活動



「Society5.0 時代」の到来、「予測困難な時代」を生き抜く子供たちに「令和の日本型学校教育」が目指す方向性として「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」にすることが必要とされています。しかし、持続可能な社会の具体的な実現方法は見つかっていない現実もあります。

玖島中学校では、昨年度から2年間「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」の貴重な機会を得ました。それは、母校への強い愛着と誇りをもつ人、多様なキャリアを有する人、課題を共有し共に歩む人にまみれる貴重な体験ともなりました。「ふるさとへの誇りや愛着」を育むためには、「ふるさとへの誇りや愛着」をもった親、地域の大人たちの存在が不可欠だと考えます。仲間や地域の大人たちと協働しながら、ふるさとのよさを体感すること、課題解決に向けて行動することが、子供たちの「ふるさとへの誇りや愛着」を高め、持続可能な社会づくりに向かう姿や学びにつながっていることに喜びを感じています。

本日、少しずつ形となりつつある拙い研究を公開する中で、御参会の皆様方から寄せられる様々な御示唆を、今後の子供たちの姿で、確かで深みのあるものへ押し進める礎としたいと考えています。

結びに、これまで御指導と御支援、御尽力を賜りました長崎県教育委員会、大村市教育委員会をはじめ、大村市商工振興課、商工会、地域の方、保護者等すべての皆様に、本校職員一同心から感謝申し上げます。

校長 大場 祥一

学校教育目標

ものを言う ものに成る 人づくり

重点目標

**知** : 豊かな学び=主体的に「学び・考え」対話的に「ものを言い」「ものにする生徒」

**徳・体** : 確かな育ち=「自分事」として「ものごとに正対」し「全力で取り組む」生徒

**気** : 多様な感性=様々な人の在り方を理解・尊重し、「協働する」生徒

研究主題

「郷土（ふるさと）のよさを知り、創り、拓く中学生」の育成  
～ふるさとを担う実践力を育む持続可能な地域貢献活動を通して～

研究仮説

生徒がふるさとの現状から課題を見出し地域貢献活動を協働して行うことにより、ふるさとの新たな価値を創造する力を育み、「ふるさと大村」の魅力やよさについて理解を深めることで、自分の将来と関連させながら主体的に「ふるさと大村」を愛し、大村を担おうとする実践力を育むことができるであろう。

身に付けさせたい資質・能力

ふるさとを担う実践力

- 1.ふるさとを愛し、誇りに思う心情
- 2.チャレンジ精神、創造性、探究心等（起業家精神）
- 3.情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等（起業家的資質・能力）

地域を知る学習

起業体験学習

地域を拓く学習

生徒の実態

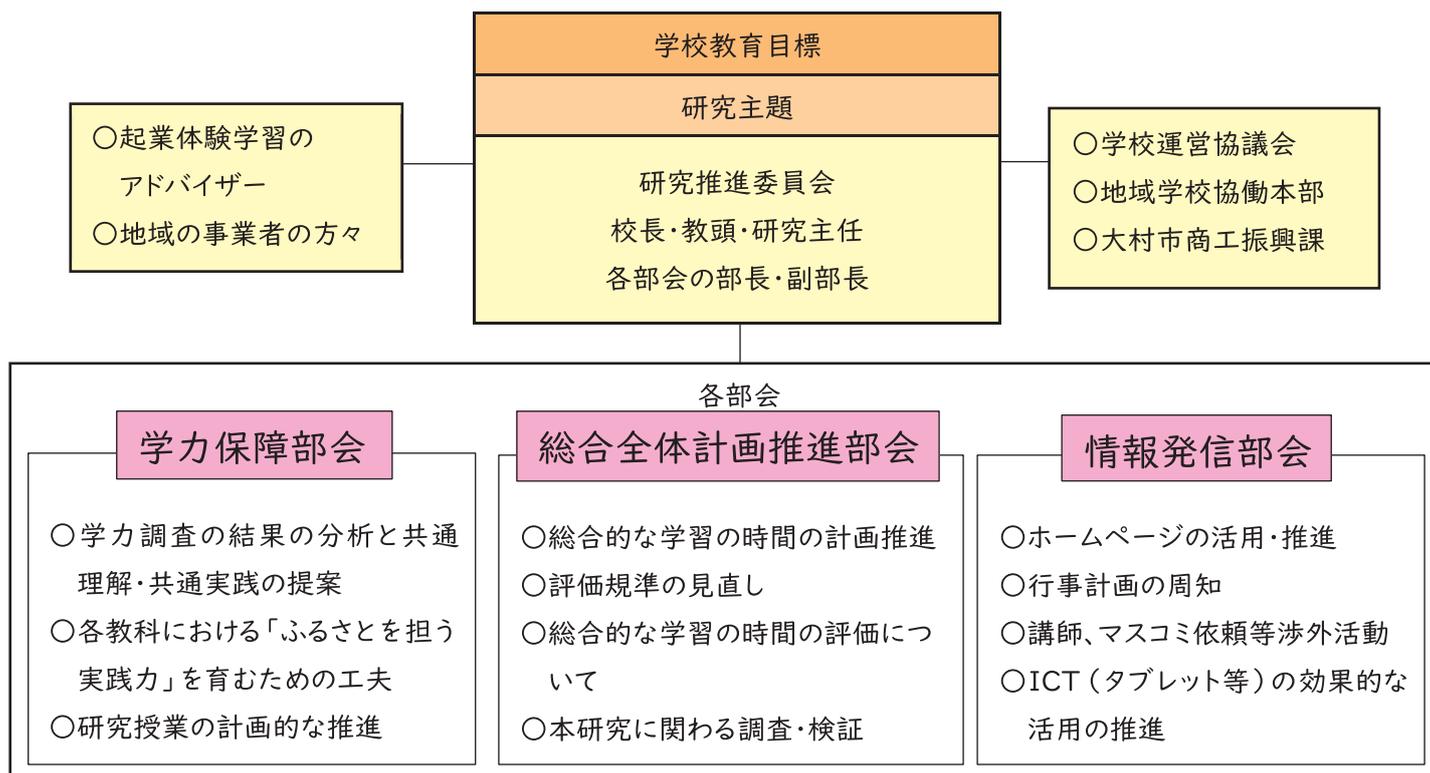
令和4年2月に実施したアンケート結果（単位 %）

質問事項	1年	2年	3年
自分の適性にあった職業を言うことができる。	60.0	66.9	66.4
自分たちが住む地域や学校のために、今自分ができていることを考えて行動することができる。	87.0	85.6	75.2
将来大人になったときに故郷のために役立つことをしたいと思う。	86.1	85.6	75.2

○「自分たちが住む地域や学校のために、今自分ができていることを考えて行動することができる」の割合は高く、令和3年度の「地域の現状から課題を見つける」という学習の効果が現れている。また、「将来大人になったときに故郷のために役立つことをしたいと思う」という項目は令和3年6月に実施したアンケートの結果よりも1年生は7ポイント、2年生は10ポイント増えており、特に2年生は起業体験学習の成果であると考えられる。

△自己理解や職業観、勤労観に課題が見られ、自己の生き方と職業の関連付けが十分にできておらず、キャリア教育の必要性があることが分かる。

## 研究組織図



## 「起業体験学習に係る総合的な学習の時間」3年間の学習内容

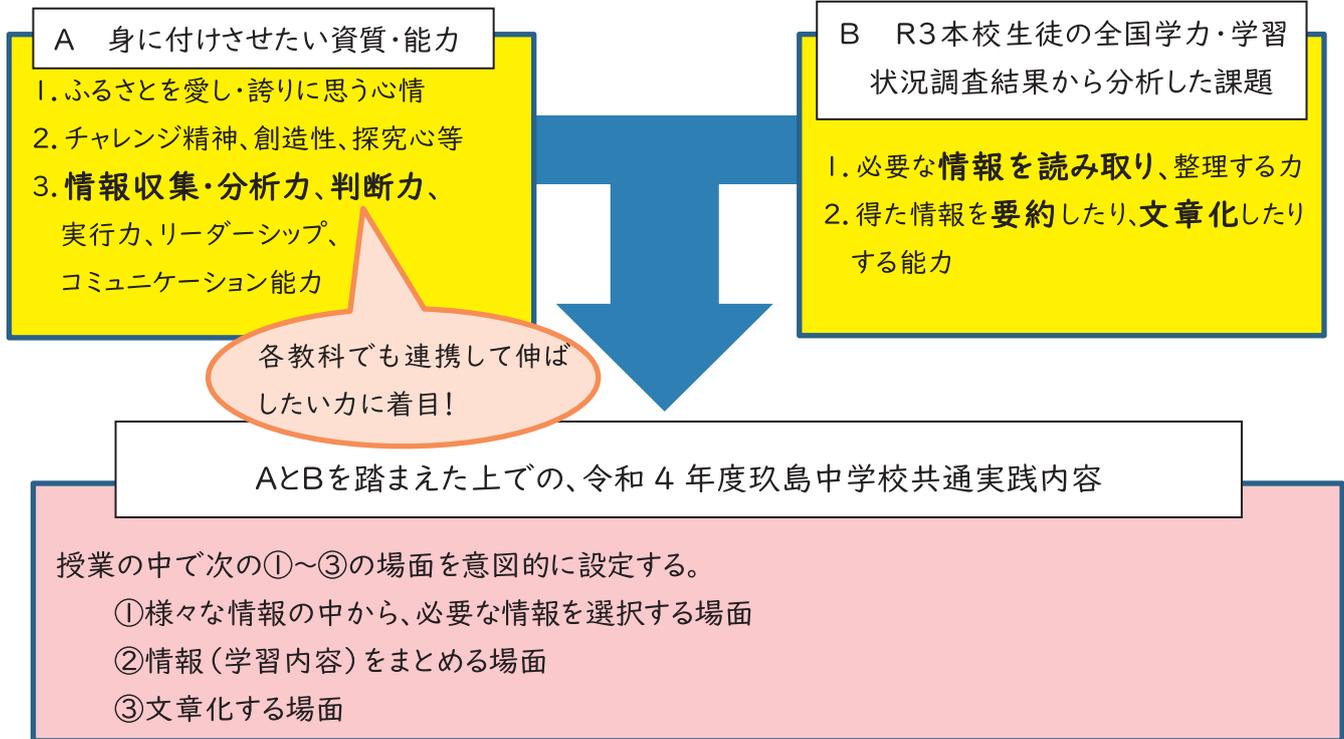
	第1学年	第2学年	第3学年
探究課題	郷土(ふるさと)を知る	郷土(ふるさと)を創る	郷土(ふるさと)を拓く
単元の目標	自分たちが住む地域のまちづくりやそれに携わる人々について調べる活動を通して、地域の特色やよさ、町づくりに携わる人々の思いに気づき、地域との関わりの中でふるさとのよさや課題、自分たちとの関わりについて考え実践する生徒を育成する。	起業に向け、地域の活性化に取り組む人や様々なアイデアを持って起業している人の思いや願いから、ふるさとの新たな価値を見出すとともに、自分たちに何ができるかを考え、課題解決に向けた起業家的資質・能力を育成する。	地域貢献を目的とした活動に主体的、協働的に取り組む中で、よりよいふるさとの未来を創造しようとする意欲を喚起し、地域に貢献することの意味を自分との関わりの中で考えるとともに、将来それぞれの立場や場面で積極的に社会に参画しようとする生徒を育成する。
学習活動	各地域に出向いたり、地域の方々から話を聞いたりし、地域のよさや課題など現状を知る。地域の方々とのつながりをたくさん作っておく。	仲間や地域と協働して起業する。(起業体験学習) 商品の販売や株主総会の開催。利益を地域に還元する方法を考える。	起業体験学習で利益が出た場合は地域に還元するとともに、地域社会と自分との関わりや、将来の生き方について考え、行動する。

# 学力保障部会

## 研究実践

- ① 全国学力・学習状況調査の結果分析
- ② 課題克服のため、各教科での共通実践の提示と分析

## 学力保障部会構想図



## 2 学期に実践した共通実践内容例

(家庭科/第2学年)

「商品の選択と購入に必要な情報を集め、購入計画を立てて適切に選択しよう。」という課題において、商品購入シミュレーションを行う際に、インターネット等を用いた情報収集を行う中で、「予算」「目的」を意識させ商品選択を行う。

(国語科/第1学年)

「エシカル消費認証ラベルについて調べ、背景にある問題をまとめよう。」という課題において、消費活動の背景にある問題点について、インターネットで調べた調査による数値データや具体的事例を挙げながら、根拠となる事例をあげ、文章を書く機会を設ける。

(理科/第3学年)

「水溶液が中性になるような中和反応において、酸・アルカリの水溶液の質量と濃度がどのような関係があるか。」という課題において、ジグソー法を用いて実験を行うことで、実験結果を持ち寄った際に、「どのような実験を行い、どのような結果になったのか」を伝えるような文章を書く。

### 【成果と課題】

- 分析結果から全職員で共通意識をもって実践内容を設定し、全校で実践することができた。
- △家庭学習の取り組み方について検討していく必要がある。

# 総合全体計画推進部会

## 研究実践

### ①起業体験学習の推進

- ・総合的な学習の時間全体計画、起業体験学習単元計画作成
- ・起業家リスト作成

### ②本研究に関わる調査・検証

## R4 年度 起業体験学習に係る計画

は地域との連携

月	1年	2年	3年
4	スケジュールの確認	起業体験学習の見直しをもつ	計画立案
5	地域の課題を知る	起業に関する情報収集	事業内容(商品)決定
	班決定 テーマ決定	起業セミナー イベントプランを考える	営業ハガキ作成 事業説明会、株主募集集会の準備
6	情報収集(校外活動)	起業	事業説明会、株主募集集会の実施
7	整理分析	企業理念を考える	株主様名簿、お礼状作成
8		起業家との交流会 各部署の業務分担 企画書作成	コラボレーションする事業所訪問 打ち合わせ 収支予算書完成 チラシやポップ作成
9	プレゼンテーション準備	出店希望者、出資者集めのための プレゼンテーション準備	くしマルシェ(販売会)の準備 地域へ営業
10	3年株主総会 参加	プレゼンテーション実施	株主総会の準備 くしマルシェ(販売会)開催 株主総会開催
11	起業体験学習の見直しをもつ	イベント開催に向けた準備作業	起業体験学習振り返り
12	起業に関する情報収集 起業セミナー① 起業家との交流会②	各地域での事業説明会 株券販売会 イベント準備	 <p>株主募集集会の様子</p>
1	ビジネスプランを考える ビジネスプランを相談 プロトタイプ(試作品)作成 アンケートやインタビュー実施	イベント開催 収支決算報告作成	
2	1年間の振り返り	株主総会の準備 株主総会開催	
3		起業体験学習振り返り	

### 【成果と課題】

- 3年間を見通した起業体験学習カリキュラムを作成することができた。
- 協力いただける地域の方々を中心とした人材バンク一覧表を作成することができた。
- △限られた時数の中で事業を進めていくことが難しかった。(行事との兼ね合い)

## 研究実践

- ①ホームページの活用、情報発信
  - 行事計画の周知、講師マスコミ依頼等交渉活動
- ②GIGA スクール構想の推進
  - ICT端末(タブレット等)の効果的な活用
  - 授業における学習用一人一台端末の効果的な活用



## 実践内容

### 1 情報発信について

#### (1) 全学年共通

- ・ホームページ 各学年の活動の様子を毎月1回発信している。

#### (2) その他の方法

- ・チャレンジ通信

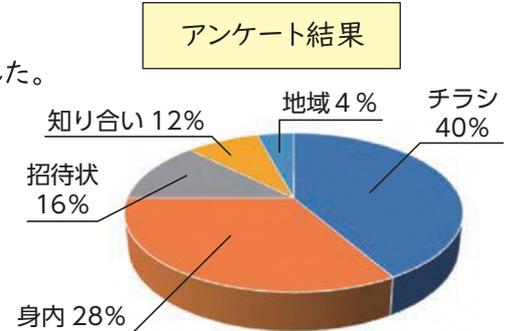
学習の様子を通信にして、地域の方へ配付した。1年目は、校区内の地区長に依頼し、回覧板を活用した。2年目は、生徒と地域の方々と交流をもたせるために、生徒に1人3枚程度を渡し、近所の人に渡す方法に変更した。

- ・TV、ケーブルテレビ、新聞

活動の様子や行事がある時には、積極的に連絡し、取材を依頼した。

#### (3) イベントに参加した人の情報入手方法

- ・6月に3年生が株券販売会を行い、参加された方々にどのようにして販売会の情報を得たか、アンケートにより尋ねた。



### 2 タブレットを使った授業例(総合的な学習の時間のみ)

3学年とも調べ活動から分析、整理、プレゼンテーション等で活用している。

1年:コース分けのアンケートなどで Google Forms を活用した。

2年:社長からのメッセージや活動の様子を確認するために、Google Meet を活用し、学年全体でリモート会議を開いている。

3年:各会社、部署ごとに Google Classroom を作り、情報共有等で活用している。



### 【成果と課題】

- 様々な方法を活用した広報活動を展開し、株主募集集会では多くの人に参加いただくことができた。
- △地域の人にもっと知ってもらい、身近に感じてもらうためには、紙媒体や電子媒体による情報を活用するばかりではなく、人と人をつなげるための活動や方法を考える必要があった。

# アンケート結果

## キャリア教育アンケート

### 【生徒アンケート】

- ・R3年度の1学期(事前)と3学期(事後)、R4年度の1学期(事前)に全生徒を対象にアンケートを実施。
- ・選択肢(4:当てはまる 3:やや当てはまる 2:やや当てはまらない 1:当てはまらない)のうち、4または3と回答した生徒の人数を集計し、その割合を表示。
- ・R2年度入学生(現3年生)、R3年度入学生(現2年生)については事前アンケートの回答結果を比較。

項目	質問	1年生	2年生		3年生	
		R4 事前	R4 R3	比較	R4 R3	比較
人間関係形成 社会形成能力	相手の気持ちや考えを大切に話し合えることができる。	95.0	93.0	▼ 3.9	98.3	△ 0.8
			96.9		97.5	
自己理解 自己管理能力	自分の適性にあった職業を言うことができる。	79.8	75.7	▼ 1.8	78.5	△ 5.5
			77.5		73.0	
課題対応能力	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	76.5	85.2	△ 1.5	88.4	△ 5.6
			83.7		82.8	
ふるさとの理解 愛情	将来、大人になったとき、故郷のために役立つことをしたいと思う。	89.9	76.5	▼ 2.6	80.2	△ 4.8
			79.1		75.4	

※(対象:人数)R3年度1年生:129名、2年生:122名、R4年度1年生:119名 2年生:115名 3年生:121名

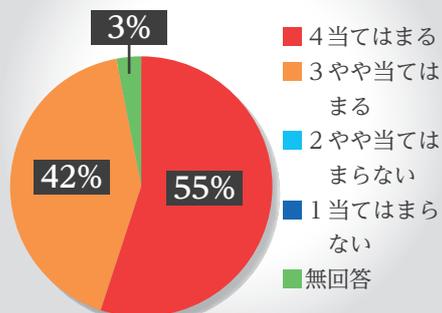
### 【考察】

- ・「やってみてうまくいかない時は、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。」という課題対応能力の項目は2年生、3年生ともにポイントが上がっており、地域の課題を見つけ解決するという方法や絶対的な答えが存在しない探究学習を通して主体的・協働的に取り組み積極的に行動する態度を養うことができた。
- ・「将来大人になったとき、故郷のために役立つことをしたいと思う。」というふるさとへの理解と愛情の項目について、3年生はポイントが前年度から上回った。これは本学習を通して多くの地域の方の思いに触れ、故郷への理解が深まったのではないかと考えられる。2年生は今後起業体験学習を進める中で、ふるさとへの理解や愛情が深まるような活動を意図的に仕組む必要がある。
  - ⇒コミュニティ・スクールの強みを生かし、学校と地域の連携協働を行っていく。
  - ⇒今回の起業体験学習が、各自の進路やキャリア形成にもつなげられている。

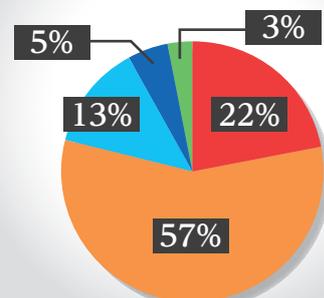
## 【アンケート結果】

対象：起業に関わってくださった地域の方、保護者 計 40 名

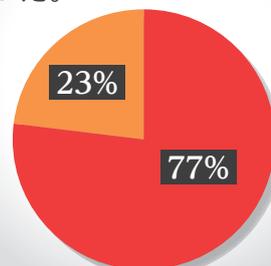
1 この学習は地域の活性化につながった。



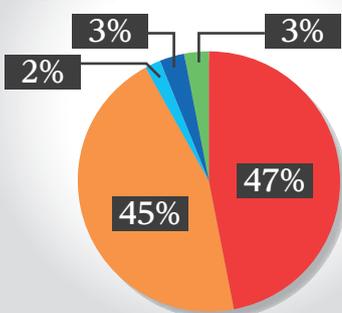
2 子どもたちと挨拶したり会話をするなど以前より関わることが増えた。



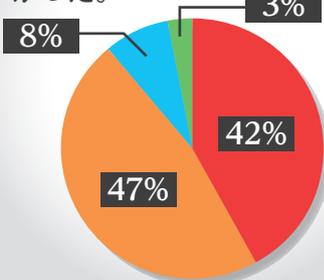
3 この学習は子どもたちが地域のよさや地域の産業を新たな視点で捉える機会となった。



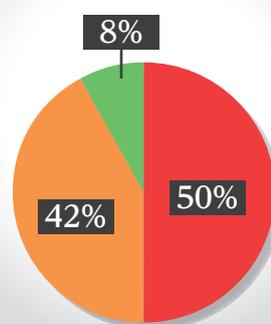
4 地域の子どもは地域で育てようという気持ちが強まった。



5 この学習を通して学校がどのような子供を育てようとしているのかを理解することにつながった。



6 この学習によって地域と学校の結びつきが強くなった。



## 令和4年2月 コンペティション後のアンケートより 審査員(地域の事業者)の方々のご意見・ご感想

○子どもたちが責任を感じながら体験することはかけがえのない貴重な経験となりこれからの生き方、活かし方に好影響。

○地域に実際に関わることで、社会的関心が高まり、生徒だけでなく、地域に住む大人にとっても地域の課題を自分事として捉えることができ、これからのパブリックリレーションズに期待したい。

○ 起業するというのはあくまでも目的のひとつであり、それに至るまでのプロセス、例えばビジネスプランをみんなで考えたり周りの大人に相談したり大勢の前で発表したりする経験がすごく大事。

○地域創発のきっかけであり、将来地域を担う人材の育成につながるものであり、かつ継続性がある新たな地域づくり教育の一環であると思う。

○地域とのつながり、「地域のひと」何かをするというところがなくなっていったので、地域を巻き込むということをもっとしてほしい。

○実際に働いている人が使っているスキルや知識、工夫などをリアルに伝えていく必要がある。

○続けてこそ地域活性へつながるので、長く継続できるような仕組みを考えていけるとよい。出資をしてもらうことの意味を考えていく時間を作ったほうがよい。

### 【考察】

厳しいご意見もいただいたが11名全ての方が本活動を持続可能なものにするために「地域の大人」として何ができるのか真摯に向き合ってくださいている。

本校はコミュニティ・スクール制度を導入しており、学校運営協議会等、教育活動への協力体制もできている。今後、学校、保護者と地域がともに本校を取り巻く教育課題について考え、どのような生徒に育てほしいか目標を熟議し、共有して取り組むことで起業体験学習の成果が高まるものと考えます。